

## (2) 経営状況

### ① 売上高規模

最近1年間における水産加工品の売上高規模についてみると、全体では「5千万円未満」の割合が34.7%と最も高く、次いで「1～3億円未満」が20.9%、「3～10億円未満」が17.9%、「10億円以上」が14.2%、「5千万～1億円未満」が12.4%となっている。

加工種類別にみると、「5千万円未満」の階層の割合が高いのは、「くん製品」(50.0%)、「水産練製品」(50.0%)、「調味加工品」(46.2%)であり、約5割を占めている。

一方、「10億円以上」の階層が多いのは、「水産缶詰・瓶詰」(43.8%)、「飼肥料・魚油」(47.4%)でありそれぞれ4割を超えている。

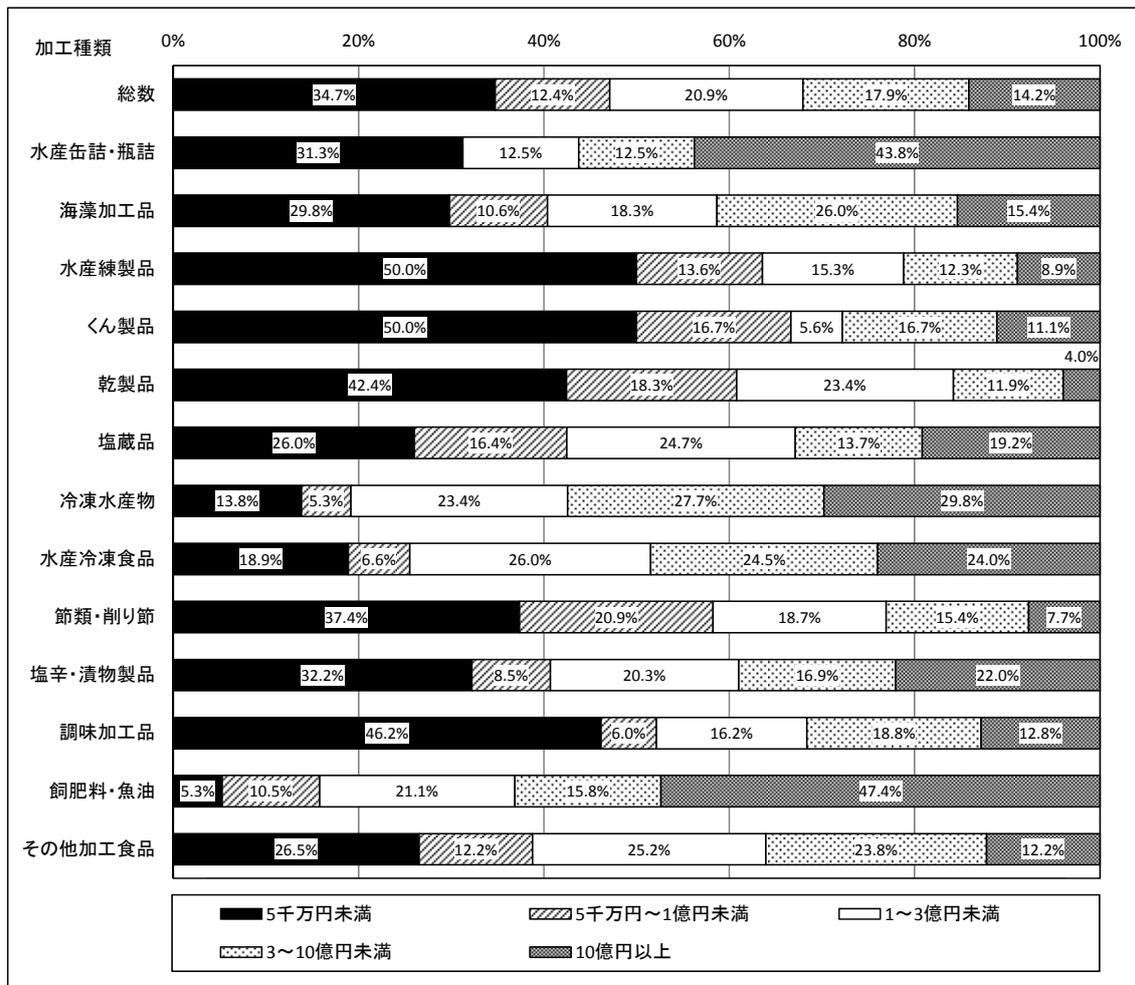


図 II-1-3 主な加工種類別売上高規模(構成比)

## ② 最近1年間の収支状況

最近1年間における収支について、「赤字」「収支均衡」「黒字」の区分で回答された結果をみると、全体では、「赤字」が35.8%、「収支均衡」が32.3%、「黒字」が32.0%とほぼ均等となっている。

加工種類別にみると、「赤字」の割合が高いのは、「くん製品」(47.6%)、「水産練製品」(43.8%)、「節類・削り節」(41.3%)で4割以上となっている。

一方、「黒字」の割合は「飼肥料・魚油」(76.0%)が特に高く、次いで「水産缶詰・瓶詰」(41.2%)、「冷凍水産物」(42.2%)となっている。

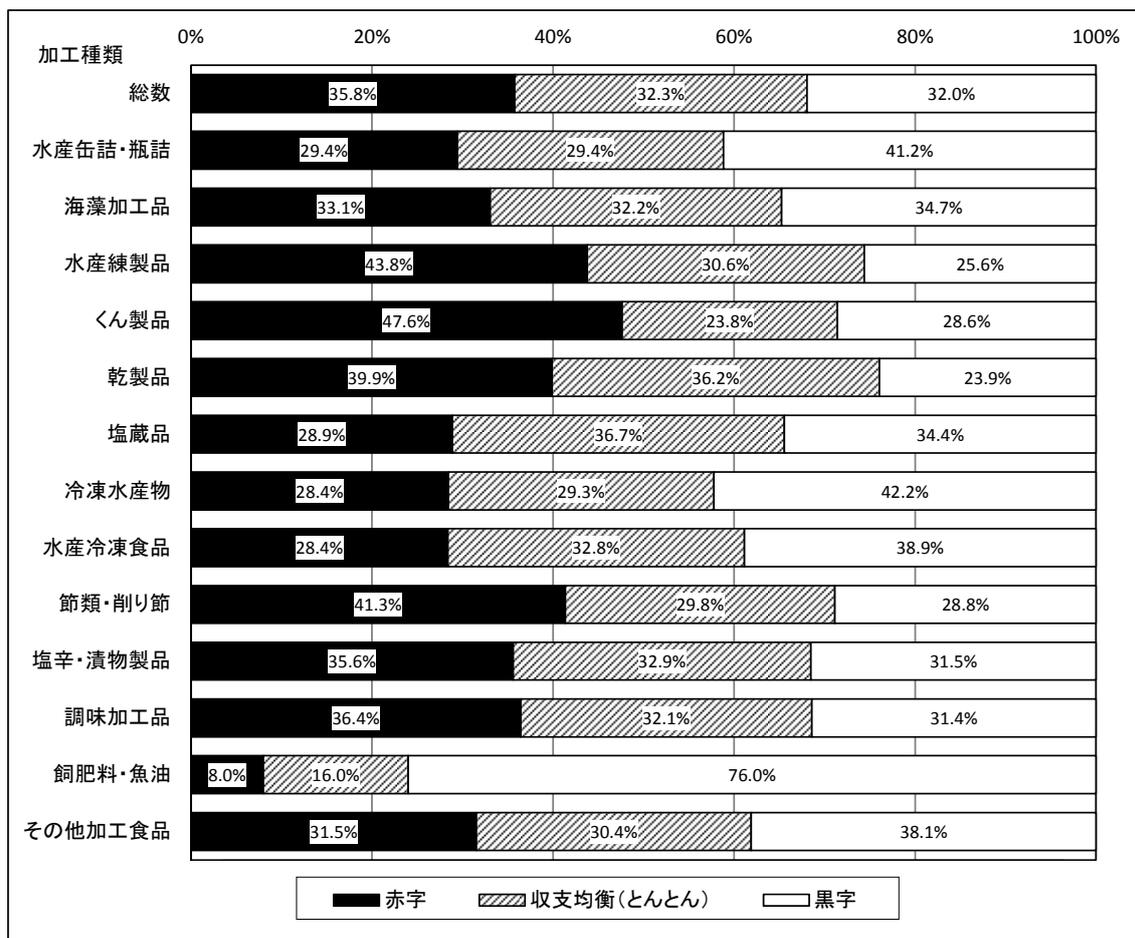


図 II-1-4 最近1年間における収支状況(構成比)

### ③ 10年前と現在の業況の比較

10年前と現在の業況の比較については、全体では「良くなっている」、「やや良くなっている」があわせて21.5%となっている。その一方で、「やや悪化している」「悪化している」があわせて63.2%となっている。

加工種類別にみると「やや悪化している」、「悪化している」との回答は、「飼肥料・魚油」を除く業種であわせて50%を超えている状況である。

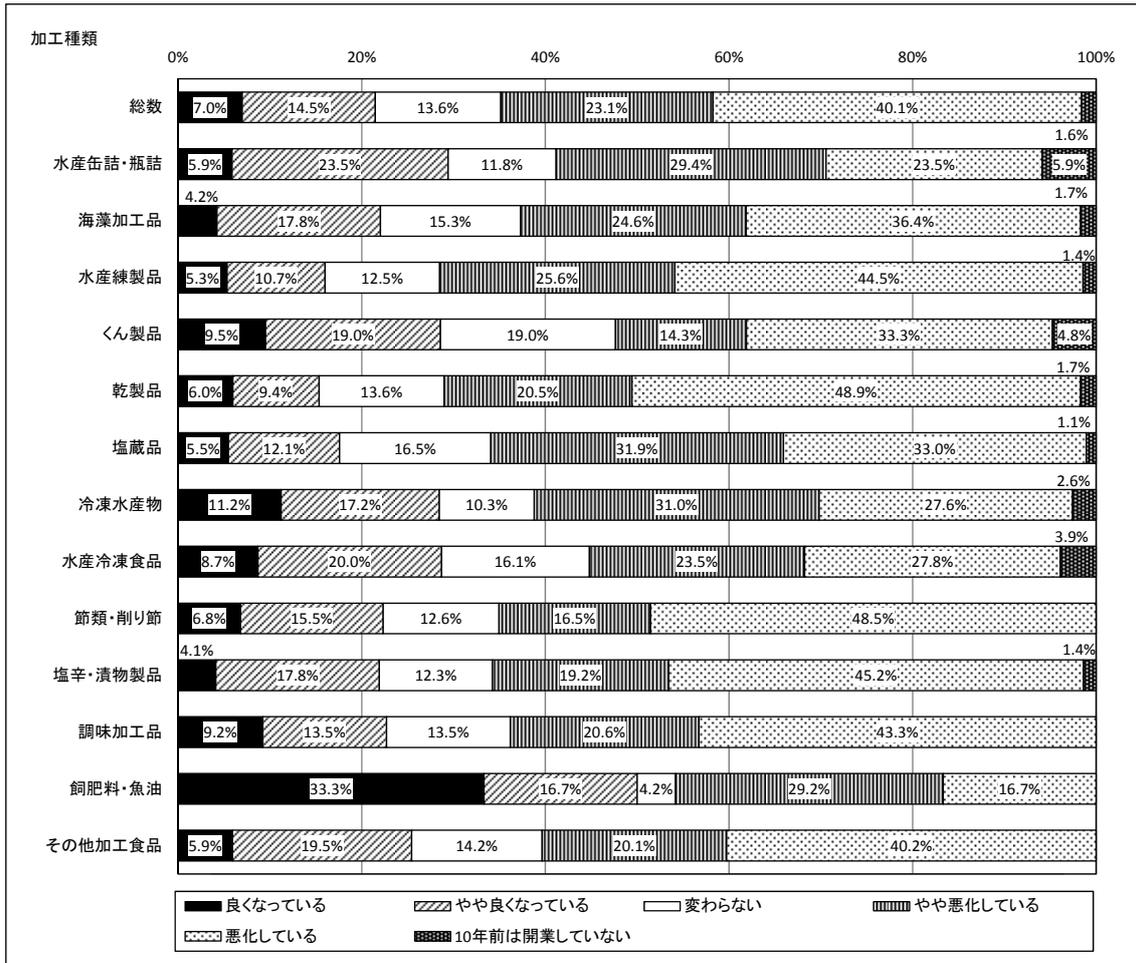


図 II-1-5 10年前との比較(構成比)